

民生環境水道常任委員会行政視察報告書

中 島 由美子

○静岡県磐田市

磐田市クリーンセンターの概要について

【所 見】

本市もごみ焼却施設の老朽化に伴い新設を予定していることから、資源の再利用の熔融スラグやごみ焼却過程で発生する熱で発電を行うなど先進的な取り組みをしている磐田市クリーンセンターを視察した。

磐田市クリーンセンターは、旧施設が28年9カ月経過し、平成23年1月まで稼働していたが、搬入量の増加やごみピットが小さいため、修繕や緊急時の対応が難しいことなどから新設された。建設工事費は、98億3,850万円で交付金29億4,000万円、金利7億8,000万円で、平成21年着工、平成23年5月に竣工した施設である。焼却炉規模は、1日224トンで112トンの炉2基を稼働、熔融炉は1日15トンが1基稼働である。熔融炉関連の建設コストや運転コストは約8億円、熔融スラグは、平成26年335トン6万7,000円、メタルは20.46トン44万2,000円でほとんど売却できているという。発電関係の建設経費は4億1,000万円、運用経費は年間4,500万円、売電収入は平成26年で6,820万円あったという。

磐田市では施設建設事業の取り組み経過として、平成14年から建設計画の調整が始まり、平成15年から平成18年にかけて地元説明会を40回程度行い、各計画の策定をしながら十分な論議を重ね、着工までに約10年間の月日を費やし調整してきた。

ごみ処理施設整備の基本方針として、発生ごみの抑制から再使用、再生利用から熱回収を伴う処理から適正処分をごみ処理に係る優先順位として定め、施策の展開を図ることを理念としている。また、「環境負荷の少ない循環型社会をつくる」ことを目標とし、技術面、運転・管理面における徹底した安全性の確保（安全性）、計画段階からの住民参加とコミュニケーションの充実、稼働後も地域に開かれた施設として情報を広く公開（共生・地域融和）、費用対効果に優れた事業の推進（経済性）、周辺環境への影響の最小化、埋め立て処分量の最小化（循環保全）、エネルギーの有効活用（環境効率性）を基本方針としている。

本市では、平成26年12月にいきなりごみ焼却施設の新設の話が挙がり、ことし2月に地元説明を行い、ボタンの掛け違いから当初住民の理解を得るには難しかったと感じたが、今後、十分な説明の中で共生をもって考えていってほしい。

そして、ごみのごみで終わらず、磐田市のように資源の再利用が図れる施設の新設に期待をしたい。

磐田市クリーンセンターの空気はきれいだった。バスから降りようとしたとき、ごみ独特の臭いを想像していたが、焼却の際に発生する排ガスを熱分解して燃焼ガスをきれいなガスにして排出する仕組みになっているという。秋の青空もきれいに見えた。

○静岡県袋井市

健康チャレンジ！！すまいる運動「健康マイレージ制度」について

【所見】

袋井市の視察は、袋井市総合健康センター内で行われた。袋井市は、平成23年に保険医療介護構想を立ち上げ、病院の統合から平成25年6月に150病床の市民病院（委託）と併設し、構想の具現化がされたという。この施設は、病院、保健センター、社会福祉協議会、ボランティアセンターからなる介護・福祉の拠点として総合健康センターとなっている。

健康マイレージ制度は、生活習慣病の予防から健康寿命の延伸、社会保障費の削減を目標にする中、一次予防、二次予防の推進の健康づくり環境の整備としての取り組みとされる。内容は、所定期間の日々の健康づくりの実践状況をポイント化。貯めたポイントは登録団体への寄附または登録サービス券と交換できる。運動教室と連携を高めると共に、毎月抽選会により拡大・定着を図る。期間は7月から11月の5カ月であるが、携帯電話やパソコン等でe-すまいるの活用で健康に役立つ情報の提供や保健指導面での活用を推進しメールで報告することでポイントが貯まるなど工夫をされていた。

利用者の状況は、平成19年1,763人の実施から平成26年1万667人と毎年ふえ続けている。参加年齢は、中学生くらいから参加し、30代から40代は比較的多く学校等への寄附に回しているようだという。ポイント寄附先団体は49団体あり、幼稚園・保育園・小学校等で1ポイント2円の報奨金で多いところは5万3288円を受けたところもあった。個人のポイントとしては、クオカードや図書カードのカード等（44%）や駅前駐車場などの利用権等（56%）と交換している。自分が楽しく健康になってポイントがもらえる「健康マイレージ制度」は、期間を設けたものではあるが、それぞれの意識づけにつながると考える。また、子供たちの参加があることは、子供の頃からの食育や健康を意識することが大切で関心を持たせるいいチャンスと考える。健診率を聞くと、特定健診の健診率は平成26年度52%

だったという。今後もマイレージの参加と健診率を合わせて上げる試みも考えているという。

平成27年度予算としては、報奨金155万円、すまいるカード・ポスター等需用費86万4,000円、役務費16万4,000円、e-すまいる使用料64万8,000円、合計330万円となっているが、健康意識が高まり、介護・医療費が削減できるのであれば、最高の施策と考えられる。

本市も医療・介護予防に徹しているが、関心を高め楽しめる方法を含めた事業としてマイレージ制度の導入をすべきと思う。